

別紙様式 1 (別紙)

令和 4 年度包括外部監査の結果に基づく措置状況

監査対象 部局等名	福祉保健部福祉政策課 (大沢野健康福祉センター)
包括外部 監査人の 指摘事項	当施設は温泉やプール、トレーニングジム等を備えた大規模施設であり、コロナ禍前は年間30万人以上の利用者数を誇っていた。一方で、当施設は建物の東半分が広大な遊休スペースになっており、利活用に重大な問題を抱えている。特に、当施設の建物は全館空調になっているため、広大な遊休スペースがあると光熱水費や修繕料の費用対効果が大きく低下してしまう。 施設所管課においては、指定管理者と協議の上、これらの遊休スペースを利活用する施策を早急に検討する必要がある。例えば、以下のような施策を検討することが考えられるが、検討にあたっては、施設の設置目的や利用ニーズを踏まえた自由な発想が求められる。また、遊休スペースについて条例で定める用途を変更する場合には条例改正が必要になるため、可及的速やかに検討を開始する必要がある。 □ 富山市南部の高齢者向けサービスを充実させるため、施設の設置目的（健康増進による医療費削減）や機能（温泉、温水プール、トレーニングジム、教室スペース、高齢者送迎バス等）が類似しており、かつ市民のニーズや満足度が高い角川介護予防センターの分室を設置する □ 当施設に隣接しており、かつ機能が類似している大沢野高齢者生きがい工房の教室機能を移転する □ 過去にこれらの遊休スペースで行っていたシニアライフ講座や各種文化教室を再開する
措置状況	令和 6 年度から、大沢野地域と八尾地域において、地域の資源を活用しながら、あらゆる世代が身近な地域で日常的に健康づくりやフレイル予防に取り組むことができる拠点づくりを新規に実施している。 富山市大沢野健康福祉センターは、本事業における大沢野地域の拠点施設として、パワーリハビリテーションマシンを新たに設置し、フレイル予防のプログラムを実施するほか、シニアライフ講座の開設やあらゆる世代を対象とした、創作や運動などの様々な講座や交流イベントを開催することとしており、施設の遊休スペースの利活用とともに、地域住民の社会参加や生きがいづくり等につなげていくこととしている。